

## 5. 御宿山北方断層(1/2)

調査項目	調査手法	調査結果	備考
文献調査	—	[新編] 日本の活断層(1991):長さ約 4km・確実度Ⅲ・活動度不明	
		活断層詳細デジタルマップ(2002):なし	
		50 万分の 1 活構造図「青森」(1986):なし	
変動地形的調査	空中写真判読	長さ:約 7.5km 【御宿山東方の断層】長さ:約 3km	第 5-1 図:御宿山断層周辺の空中写真判読図
地表地質調査	地表踏査	L <sub>0</sub> リニアメントの近傍に断層露頭が確認される(〇-1露頭)。断層は、南東落ちの高角度断層であり、顕著な破碎部は認められず、断層面は密着している。 L <sub>0</sub> リニアメントは、断層とほぼ対応し、断層と対応しない部分においては、岩相境界等に対応している。	第 5-2 図:御宿山断層周辺の地質平面図 第 5-3 図:御宿山断層周辺の地質断面図 第 5-4 図:御宿山北方の断層露頭スケッチ図(〇-1露頭)
		断層の北東延長部:中位段丘面に撓み、増傾斜等の地形は認められず、同段丘面上にリニアメント・変動地形は判読されない。また、中位段丘面の旧汀線高度にも顕著な高度差は認められない。	第 5-5 図:御宿山北方断層北東延長部に分布する中位段丘面図
		断層の南西延長部:高位段丘面上にリニアメント・変動地形は判読されず、段丘面の高度不連続も認められない。	第 5-6 図:御宿山北方断層南西延長部に分布する高位段丘面図
		御宿山周辺の水系図及び接峰面図によると、断層及びL <sub>0</sub> リニアメントを挟んで、山地高度の不連続や水系の系統的な屈曲等の変動地形は認められない。	第 5-7 図:御宿山周辺の水系図及び接峰面図
		【御宿山東方の断層】 地質分布から2条の西落ちの正断層が推定される。断層露頭が確認され、御宿山北方断層と同様、顕著な破碎部は認められず、断層面も密着している。 東側の断層沿いには、L <sub>0</sub> リニアメントが断続的に判読されるが、概ね岩相境界に対応している。 推定される断層は御宿山北方断層を境にして、その南北で断層線の位置が食い違い、御宿山北方断層に切断されていると判断される。 (次ページにつづく)	第 5-2 図:御宿山断層周辺の地質平面図 第 5-3 図:御宿山断層周辺の地質断面図

敷地周辺・近傍の断層等

5. 御宿山北方断層(2/2)

調査項目	調査手法	調査結果	備考
地表地質調査	地表踏査	<p>断層中央部においては、L<sub>0</sub>リニアメントの延長位置を挟んで、高位段丘面に高度不連続は認められない。</p> <p>御宿山北方断層と同様、L<sub>0</sub>リニアメントを挟んで、山地高度の不連続や水系の系統的な屈曲等の変動地形は認められない。</p>	<p>第 5-8 図：御宿山東方の断層中央部に分布する高位段丘面図</p> <p>第 5-7 図：御宿山周辺の水系図及び接峰面図</p>
総合評価			

○断層は、南東落ちの高角度断層であり、顕著な破砕部は認められず、断層面は密着している。

○水系図及び接峰面図によると、断層及びL<sub>0</sub>リニアメントを挟んで、山地高度の不連続や水系の系統的な屈曲等の変動地形は認められない。

○L<sub>0</sub>リニアメントは、岩質の差を反映した浸食地形と判断される。

【御宿山東方の断層】

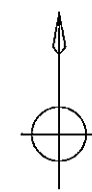
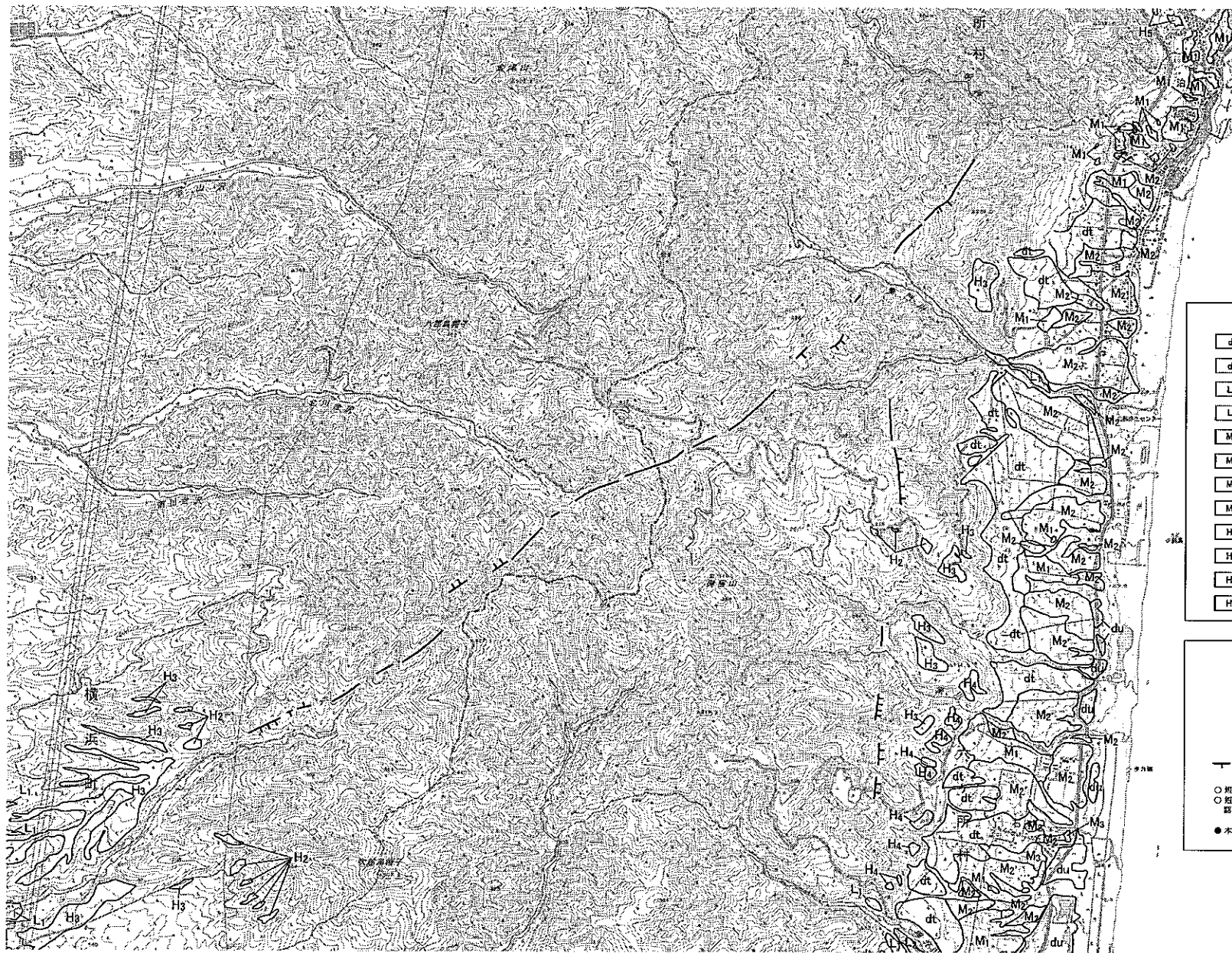
○2条の西落ちの正断層が推定される。断層露頭が確認され、御宿山北方断層と同様、顕著な破砕部は認められず、断層面も密着している。

○推定される断層は御宿山北方断層を境にして、その南北で断層線の位置が食い違い、御宿山北方断層に切断されていると判断される。

○断層中央部においては、L<sub>0</sub>リニアメントの延長位置を挟んで、高位段丘面に高度不連続は認められない。

○御宿山北方断層と同様、L<sub>0</sub>リニアメントを挟んで、山地高度の不連続や水系の系統的な屈曲等の変動地形は認められない。

○L<sub>0</sub>リニアメントは、岩質の差を反映した浸食地形と判断される。



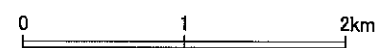
地形面区分凡例

dt	扇状地面	
du	砂丘	
L <sub>2</sub>	L <sub>2</sub> 面	低位面
L <sub>1</sub>	L <sub>1</sub> 面	
M <sub>2</sub>	M <sub>2</sub> 面	中位面
M <sub>2</sub> '	M <sub>2</sub> '面	
M <sub>2</sub>	M <sub>2</sub> 面	
M <sub>1</sub>	M <sub>1</sub> 面	高位面
H <sub>5</sub>	H <sub>5</sub> 面	
H <sub>4</sub>	H <sub>4</sub> 面	
H <sub>3</sub>	H <sub>3</sub> 面	
H <sub>2</sub>	H <sub>2</sub> 面	

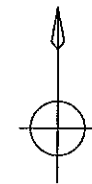
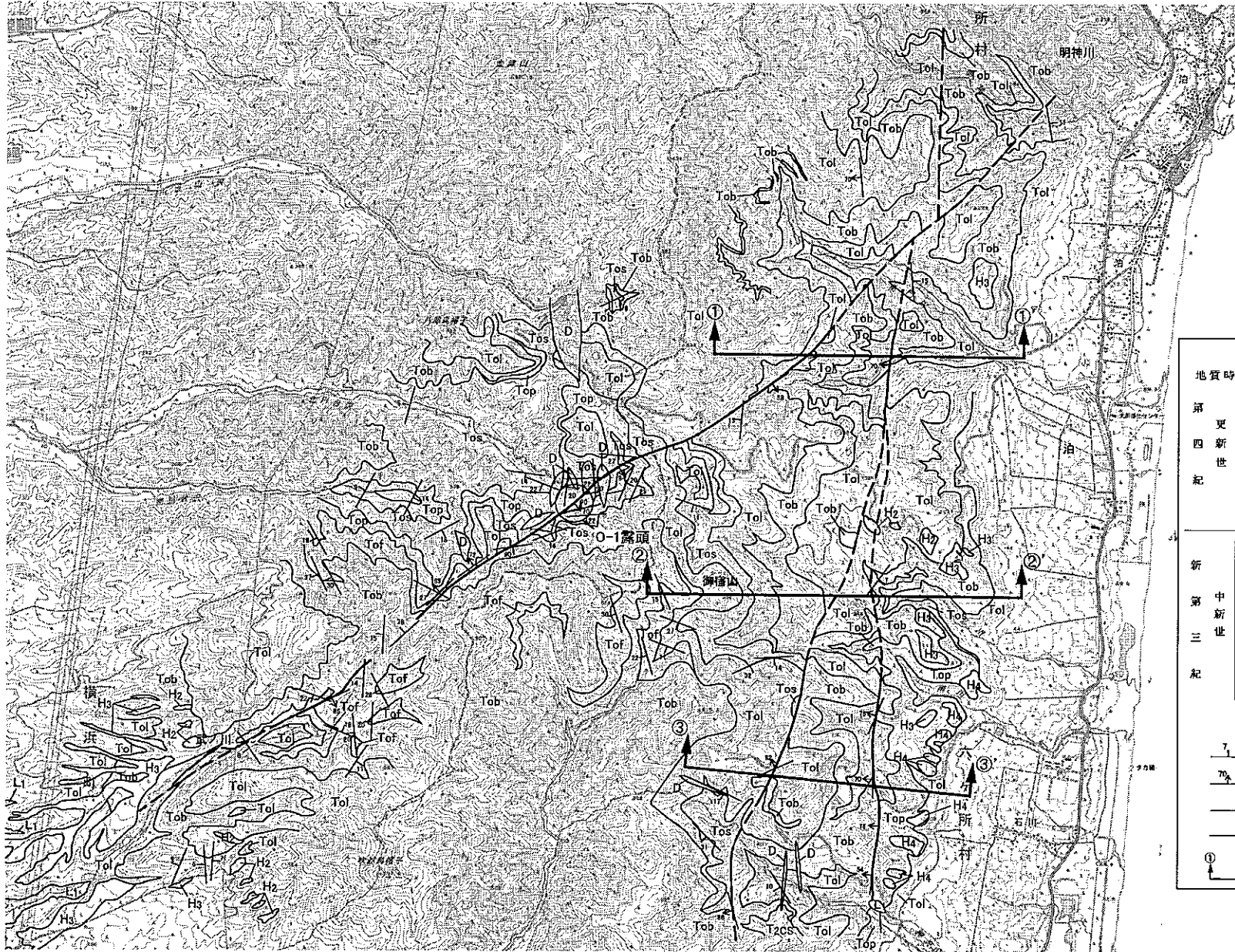
変動地形に基づいた  
リアメントの判読結果の凡例

L <sub>A</sub>	変動地形である可能性が高い
L <sub>B</sub>	変動地形である可能性がある
L <sub>C</sub>	変動地形である可能性が低い
L <sub>D</sub>	変動地形である可能性は非常に低い

○ 粗線の方向は、他の地形の方向を示す。  
○ 粗線の無いリアメントは、その両側で高度の不連続が認められないもの。  
● 本地図に、L<sub>A</sub>、L<sub>B</sub>及びL<sub>C</sub>のリアメントは判読されない。



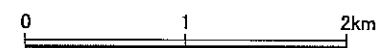
第5-1図 御宿山北方断層周辺の空中写真判読図



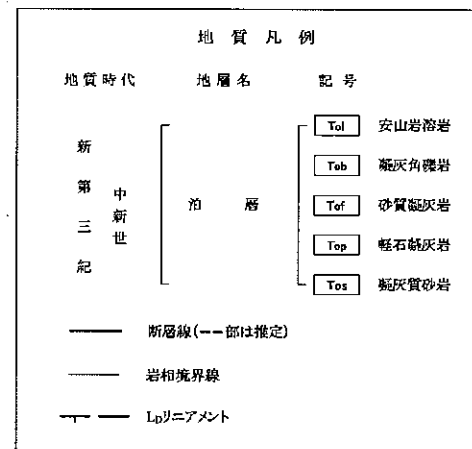
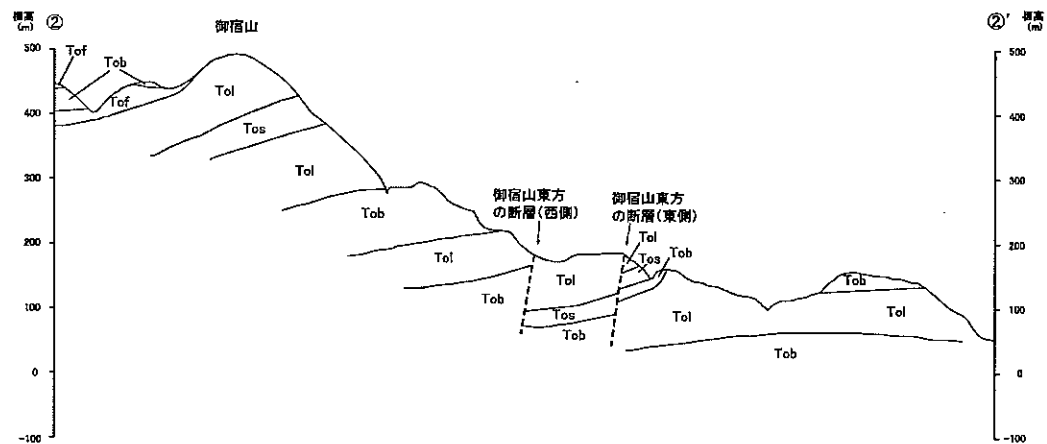
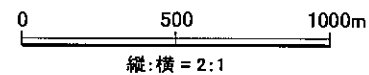
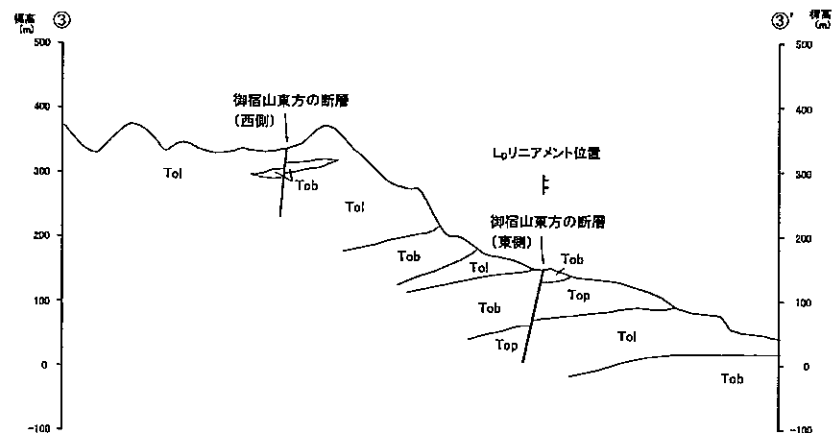
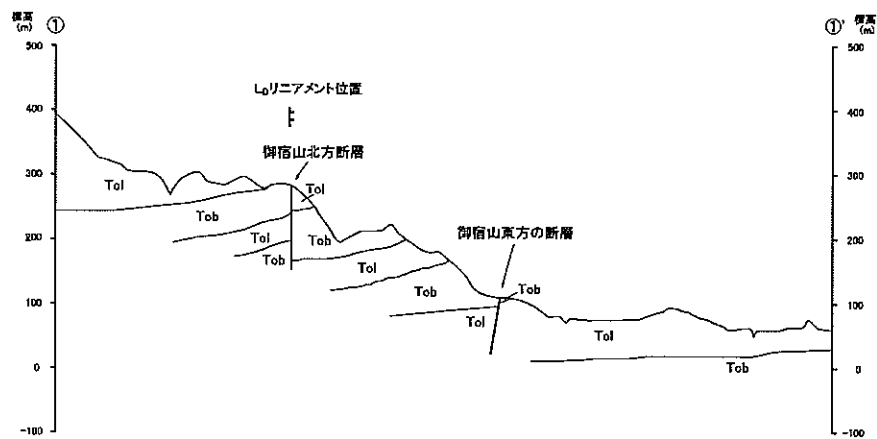
地質凡例			
地質時代	地層名	記号	
第 四 紀	後 期	低位段丘堆積層	L <sub>1</sub>
			L <sub>2</sub>
	中 期	高位段丘堆積層	H <sub>1</sub>
			H <sub>2</sub>
			H <sub>3</sub>
新 第 三 紀	廣 梁 層	T <sub>2cs</sub>	粗粒砂岩
		Tol	安山岩溶岩
	泊 層	Tob	凝灰角礫岩
		Tof	砂質凝灰岩
		Top	軽石凝灰岩
	貫 入 岩	Tas	凝灰質砂岩
		D	

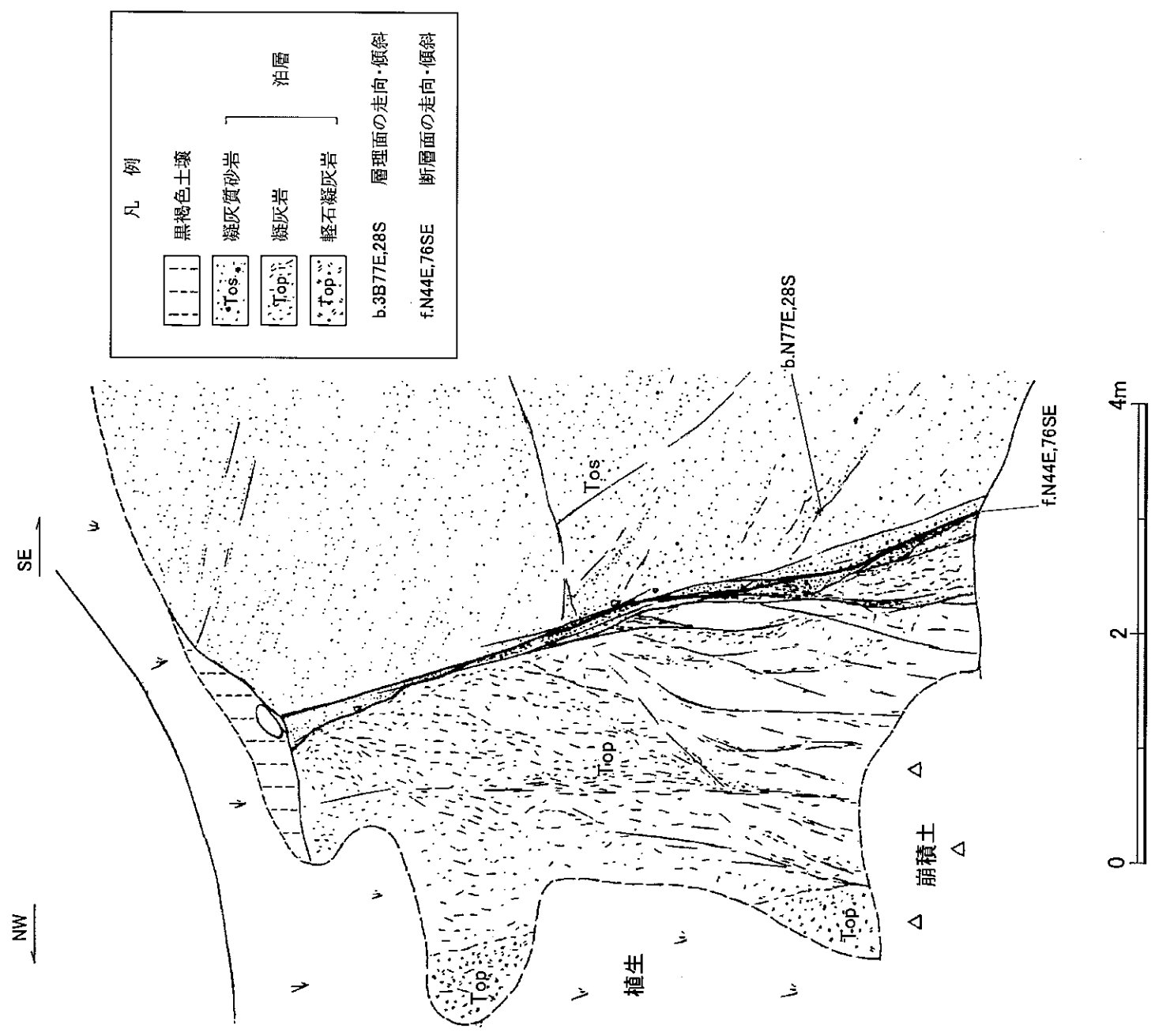
	地層の走向・傾斜
	断層の走向・傾斜
	地層境界線・岩相境界線
	断層線(---は推定)
	地質断面線
	露頭位置



第5-2図 御宿山北方断層周辺の地質平面図

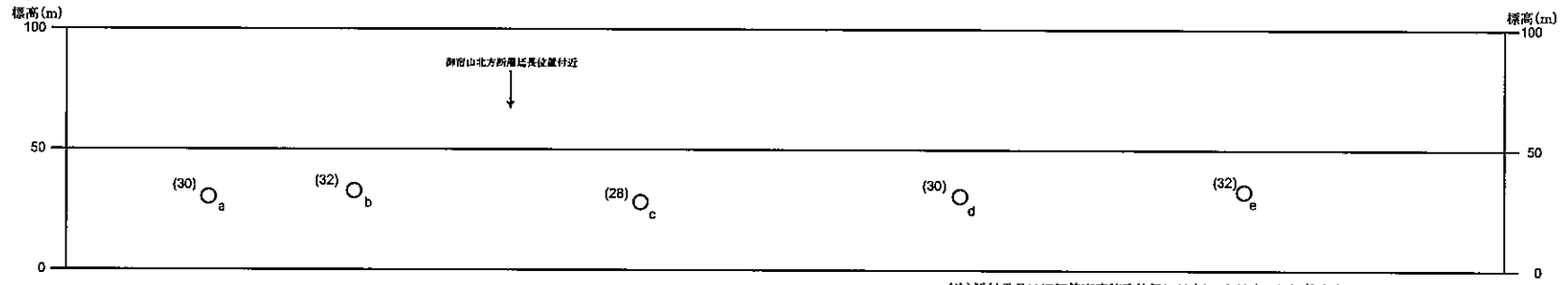


第5-3図 御宿山北方断層周辺の地質断面図

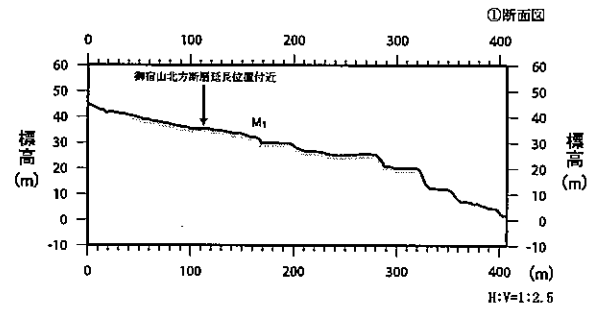
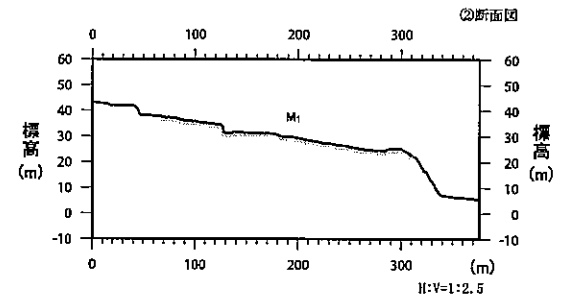
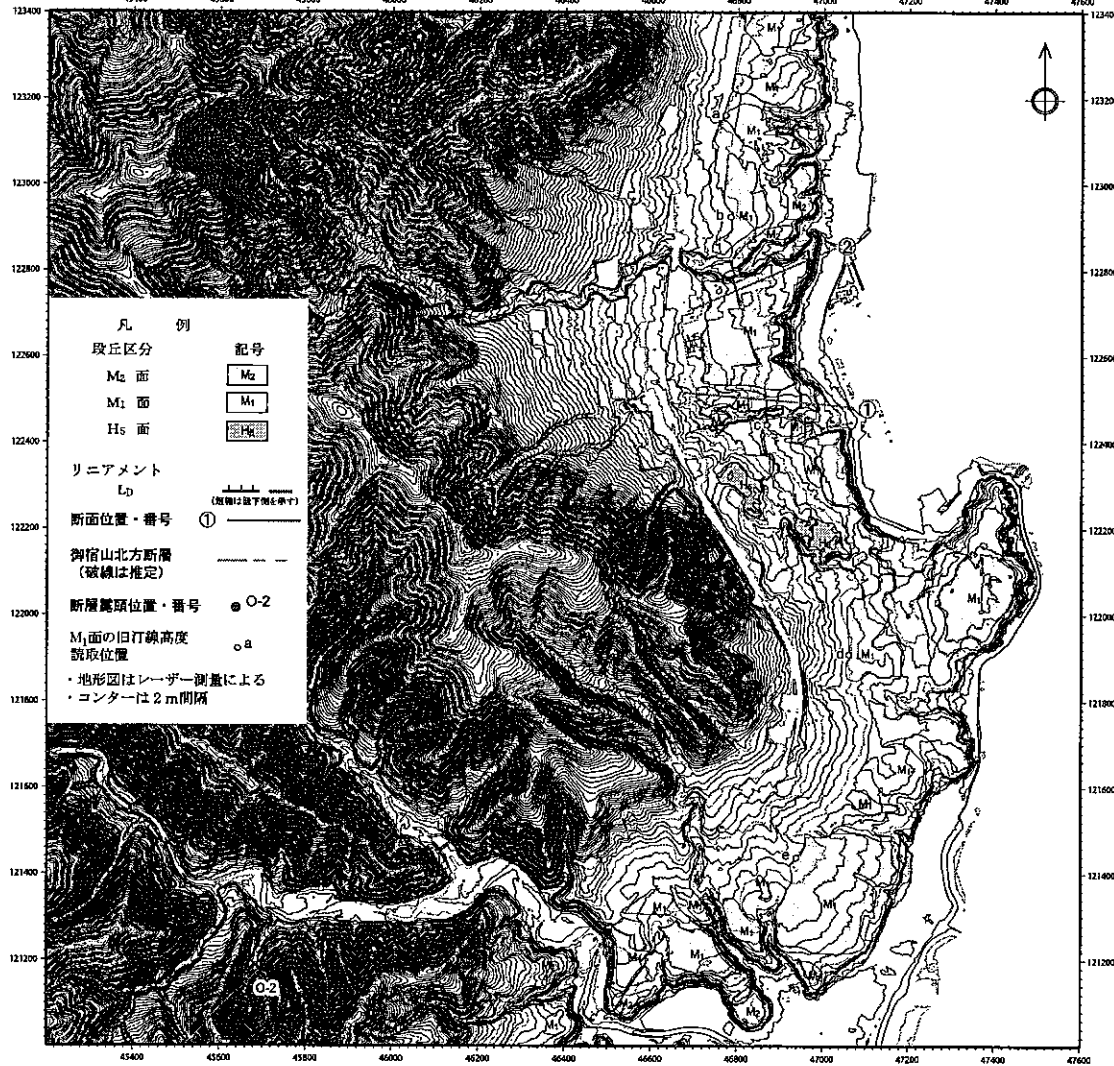


第5-4図 御宿山北方の断層露頭スケッチ図(0-1露頭)

【M<sub>1</sub>面の旧汀線高度分布】

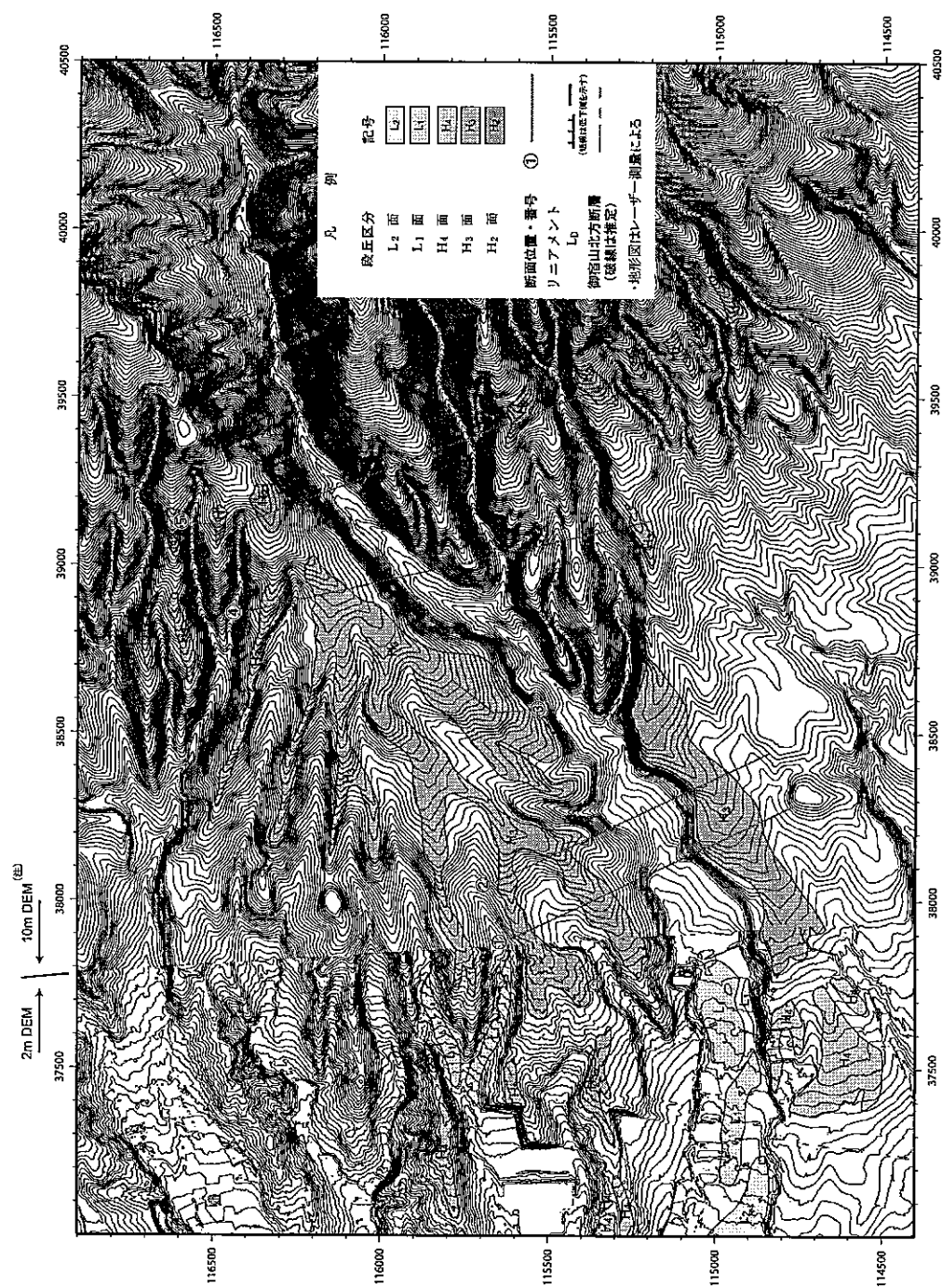


(注) 添付番号は旧汀線高度観測位置に対応し、各地点の旧汀線高度は下図の地形図(2mコンター)からの読取による。なお、括弧内に示す数値は旧汀線高度の標高を示す。

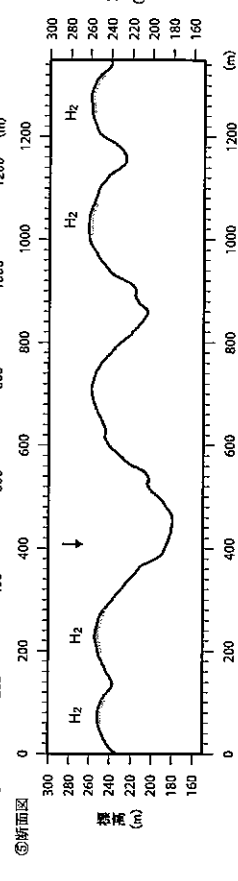
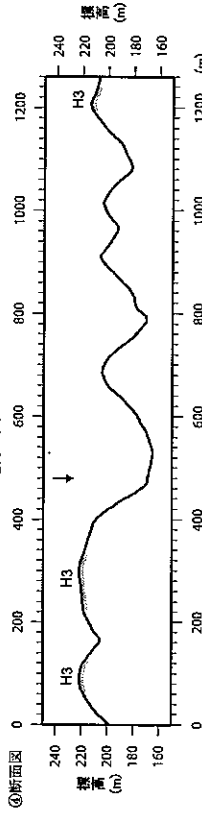
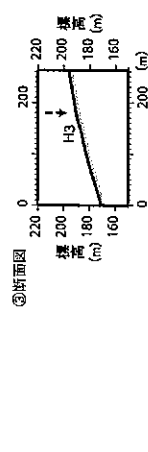
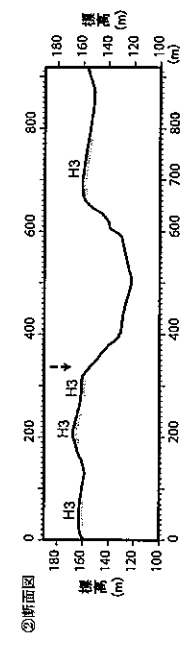
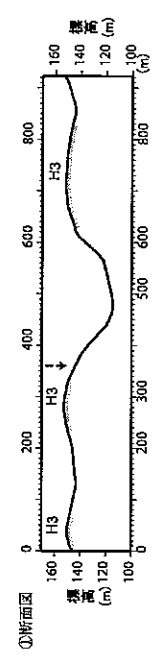


第5-5図 御宿山北方断層北東延長部に分布する中位段丘面図





(注) 国土地理院 基礎地図情報 (数値標高モデル) の 10mメッシュ (標高) を使用



凡例

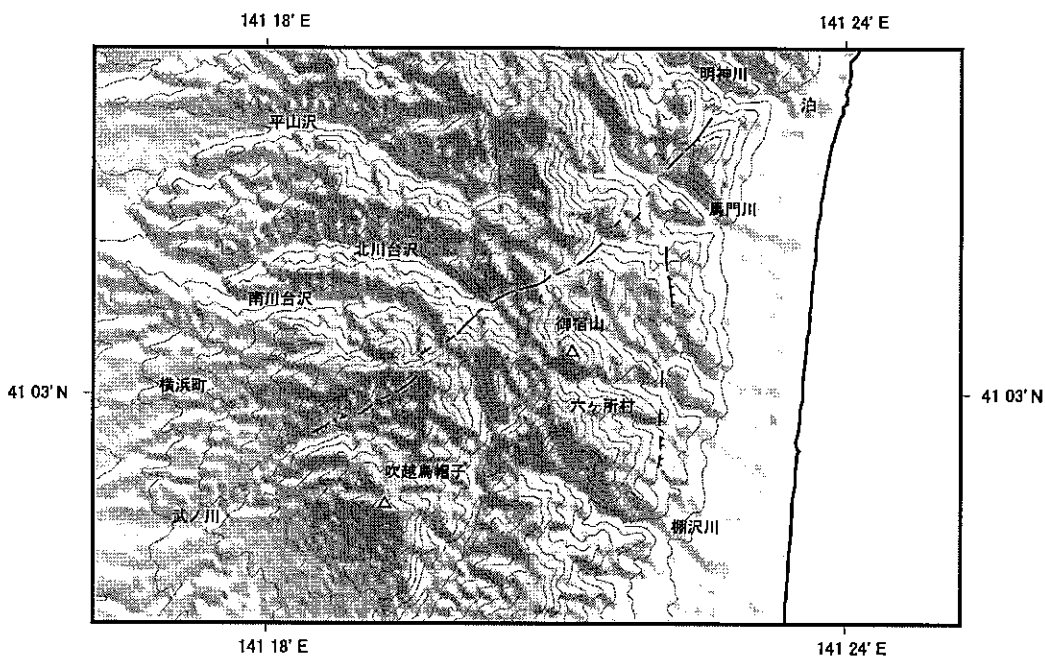
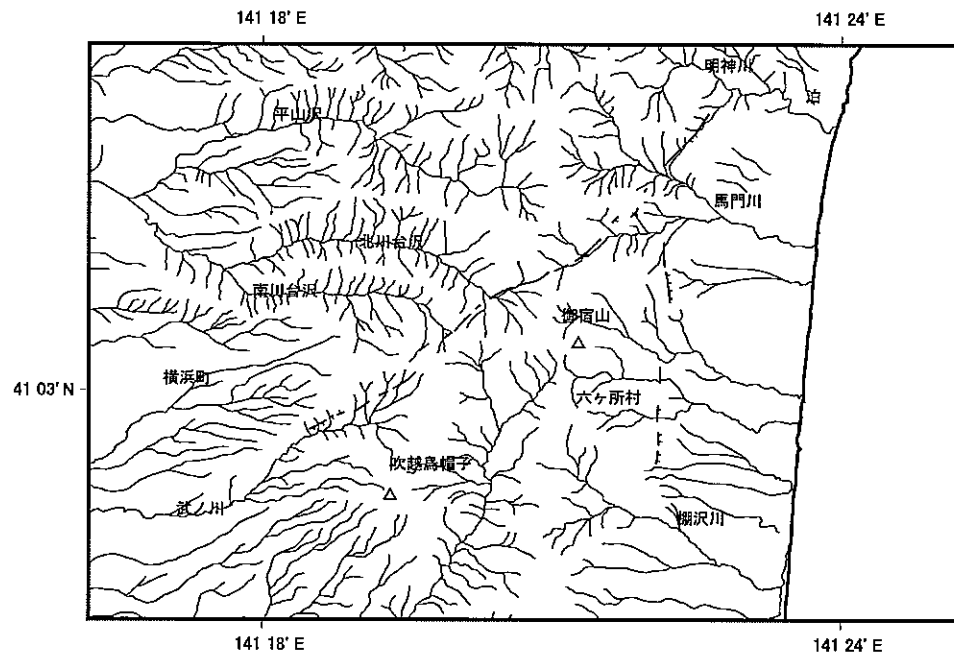
↓ 御宿山北方断層延長位置

↑ 御宿山北方断層延長位置付近

全ての断面図において、H:1=1:2.5

第5-6図 御宿山北方断層南西延長部に分布する高位段丘面図



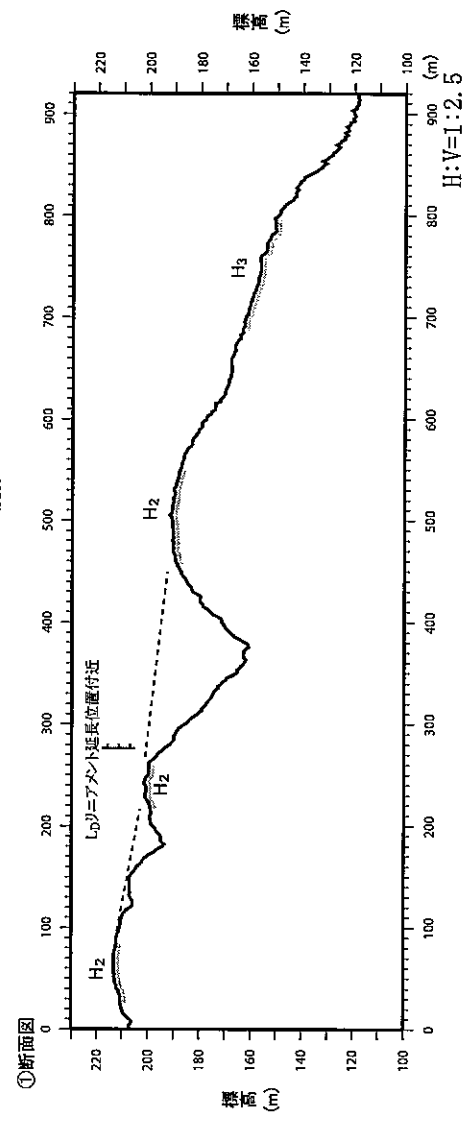
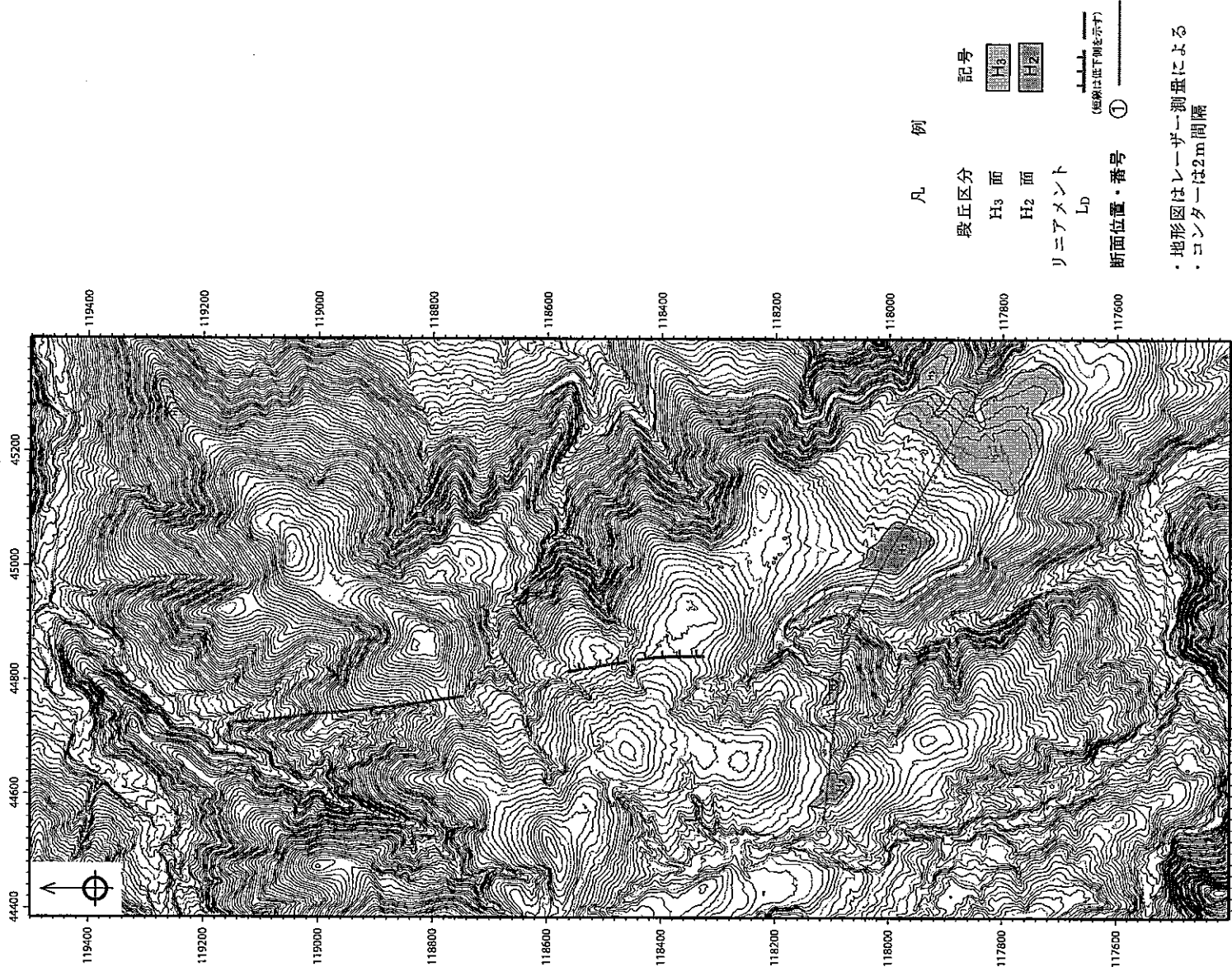


※本陰影図は国土地理院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を用いて作成した。



— — — Lpリアメント

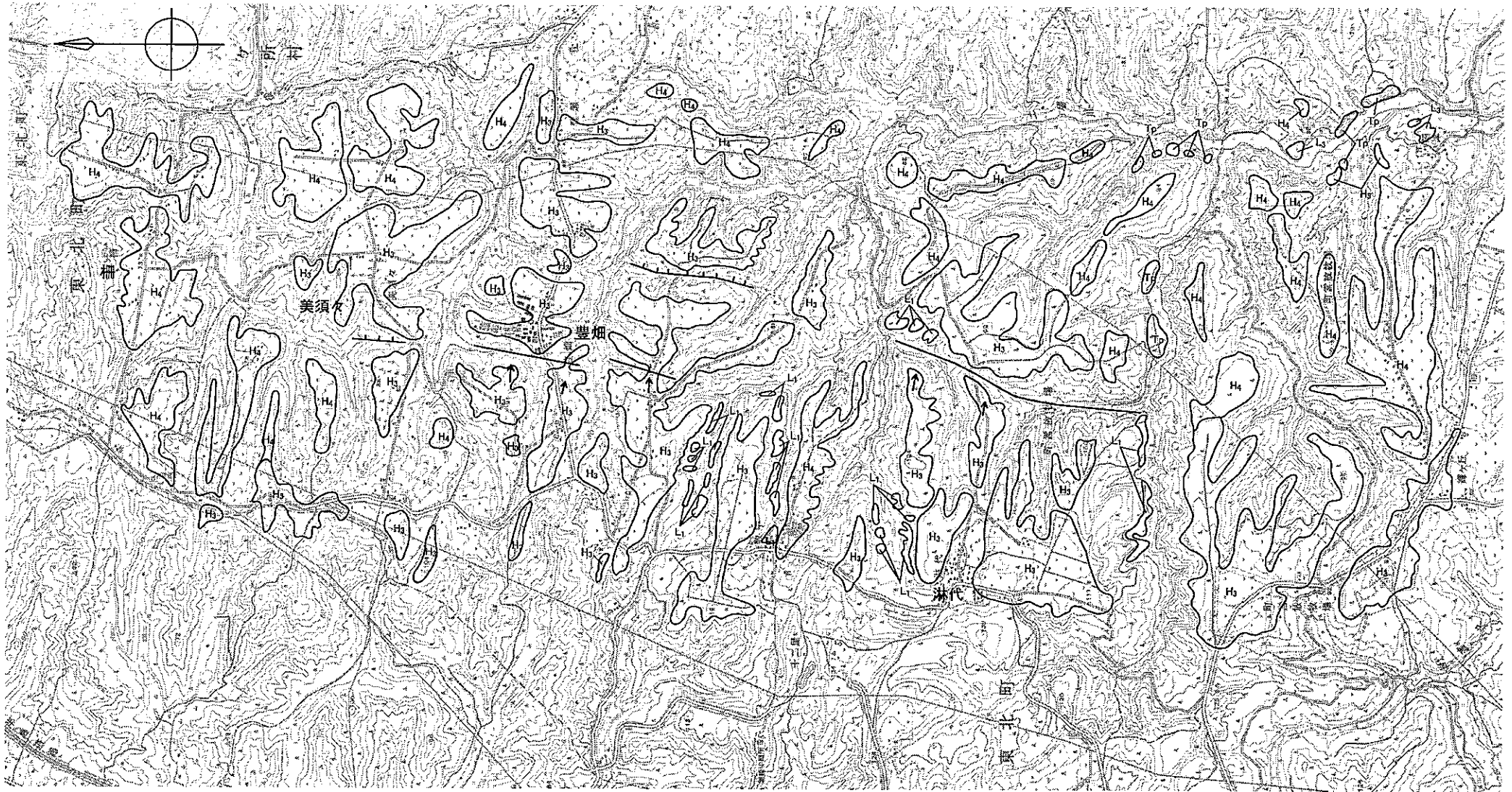
第5-7図 御宿山周辺の水系図及び接峰面図



第5-8図 御宿山東方の断層中央部に分布する高位段丘面図

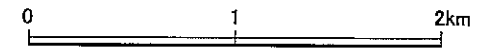
## 6. 淋代東方のリニアメント・変動地形

調査項目	調査手法	調査結果	備考
文献調査	—	[新編] 日本の活断層(1991):長さ約 2km・確実度Ⅲ・活動度不明	
		活断層詳細デジタルマップ(2002):なし	
		50 万分の 1 活構造図「青森」(1986):なし	
変動地形学的調査	空中写真判読	長さ:約 2.1km、約 3.5km	第 6-1 図:東北町淋代東方周辺の空中写真判読図
地表地質調査	地表踏査	美須々:高位面(H <sub>3</sub> 面)上から実施したハンドオーガボーリング等の調査結果によると、L <sub>0</sub> リニアメントを挟んで高位段丘堆積層(H <sub>3</sub> 面堆積物)上面は連続的に分布し、これを覆うヌカミノ軽石及び洞爺火山灰もほぼ水平に分布する。	第 6-2 図:東北町淋代東方周辺の地質平面図 第 6-3 図:東北町美須々周辺の柱状対比図
		豊畑南方:高位面(H <sub>3</sub> 面)上から実施したハンドオーガボーリング等の調査結果によると、L <sub>0</sub> リニアメントを挟んで高位段丘堆積層(H <sub>3</sub> 面堆積物)は連続的に分布しており、これを覆う甲地軽石及びヌカミノ軽石もほぼ水平に連続する。	第 6-4 図:東北町豊畑南方の柱状対比図
		淋代東方:確実度ⅢのリニアメントおよびL <sub>0</sub> リニアメントを挟んで、砂子又層のシルト岩中に挟まれる軽石凝灰岩、砂岩及び凝灰岩の構造に不連続は認められない。	第 6-5 図:東北町淋代東方の露頭柱状対比図
		美須々・豊畑南方:L <sub>0</sub> リニアメントは、風成砂による地形的な高まりが撓み状の崖と類似した地形形態を呈しているものと判断される。	
総合評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>○美須々:L<sub>0</sub>リニアメントを挟んで高位段丘堆積層(H<sub>3</sub>面堆積物)上面は連続的に分布し、これを覆うヌカミノ軽石及び洞爺火山灰もほぼ水平に分布する。</li> <li>○豊畑南方:L<sub>0</sub>リニアメントを挟んで高位段丘堆積層(H<sub>3</sub>面堆積物)は連続的に分布しており、これを覆う甲地軽石及びヌカミノ軽石もほぼ水平に連続する。</li> <li>○淋代東方:確実度ⅢのリニアメントおよびL<sub>0</sub>リニアメントを挟んで、砂子又層のシルト岩中に挟まれる軽石凝灰岩、砂岩及び凝灰岩の構造に不連続は認められない。</li> <li>○美須々・豊畑南方:L<sub>0</sub>リニアメントは、風成砂による地形的な高まりが撓み状の崖と類似した地形形態を呈しているものと判断される。</li> </ul>	

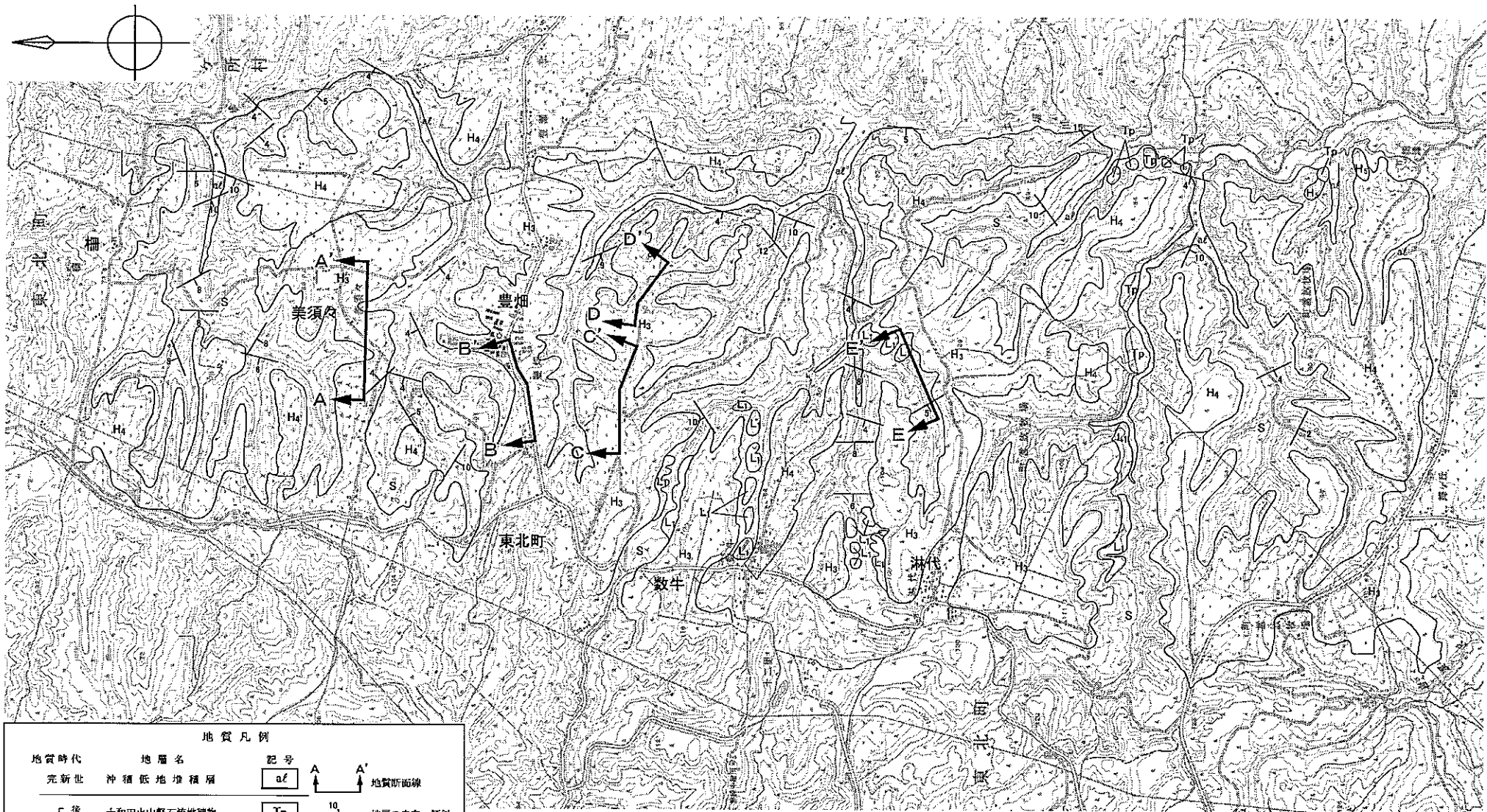


地形面区分凡例	
Tp	十和田火山軽石流堆積物の堆積面
L <sub>1</sub>	L <sub>1</sub> 面 低位面
H <sub>5</sub>	H <sub>5</sub> 面 H <sub>4</sub> 面 H <sub>3</sub> 面 } 高位面
H <sub>4</sub>	
H <sub>3</sub>	
H <sub>2</sub>	

変動地形に基づいた リアメントの判読結果の凡例	
L <sub>A</sub>	変動地形である可能性が高い
L <sub>B</sub>	変動地形である可能性がある
L <sub>C</sub>	変動地形である可能性が低い
L <sub>D</sub>	変動地形である可能性は非常に低い
○	短線の方向は、低い地形の方向を示す。
○	短線の無いリアメントは、その両側で高度の不連続が認められないもの。
↓	段丘面上の急傾斜部。矢印の方向は傾斜方向を示す。
●	本図案に、L <sub>A</sub> 、L <sub>B</sub> 及びL <sub>C</sub> リアメントは判読されない。

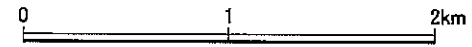


第6-1図 東北町淋代東方周辺の空中写真判読図

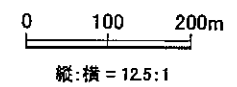
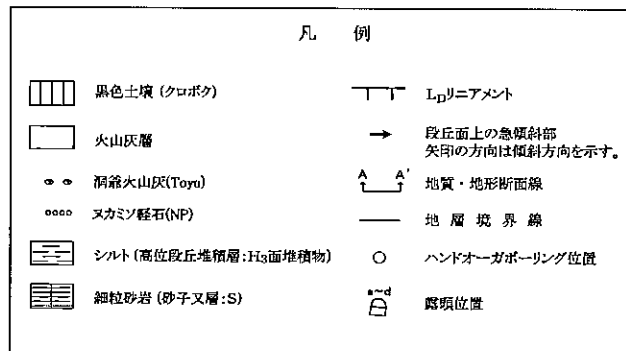
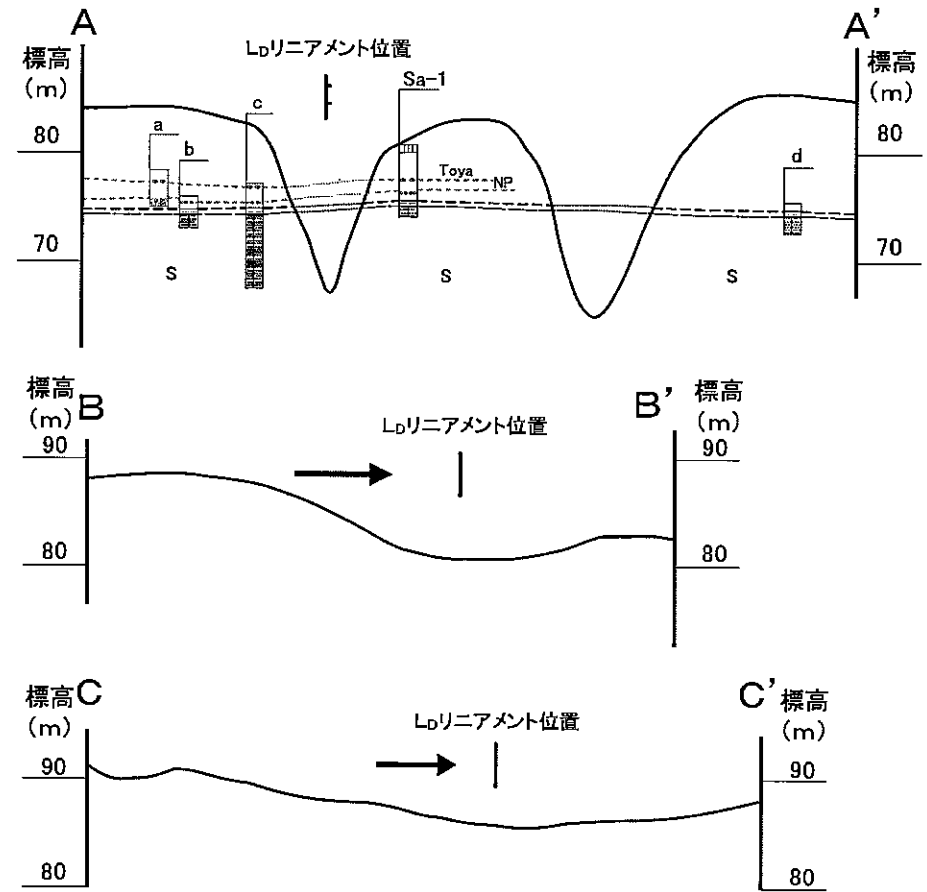
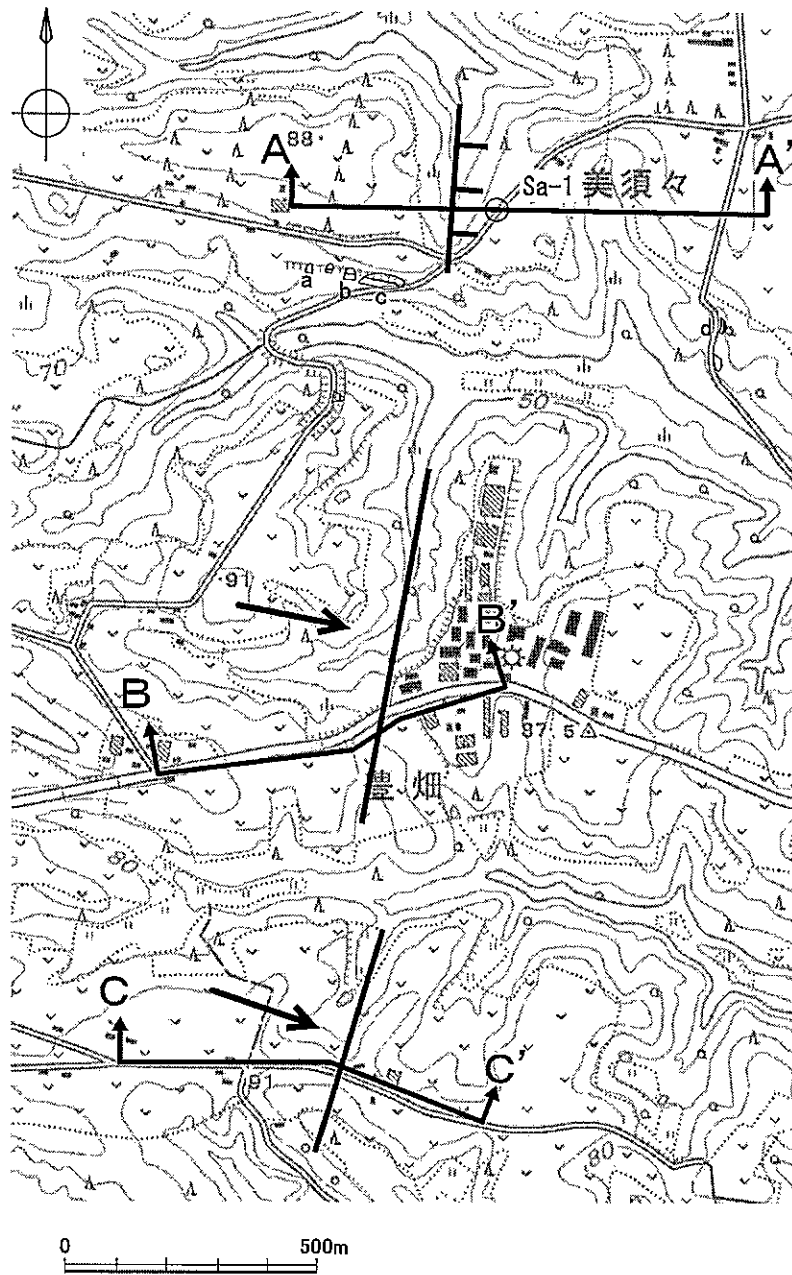


地質凡例

地質時代	地層名	記号	
完新世	沖積低地堆積層	aL	↑ A ↑ A' 地質断面線
第 更 期	後 十和田火山軽石流堆積物	Tp	10 地層の走向・傾斜
	低位段丘堆積層	L1	— 地層境界線
四 新 世 紀	中 高位段丘堆積層	H5	
		H4	
		H3	
前期	砂子又層	S	
新 第 三 紀	鮮新世		

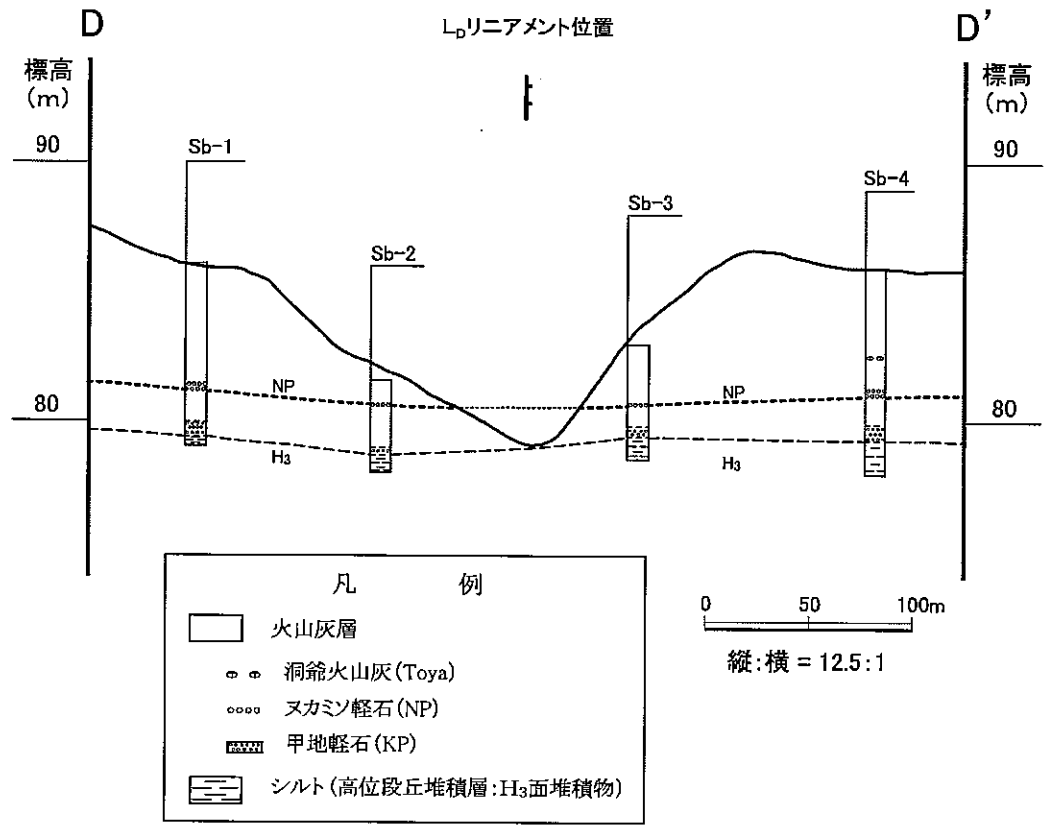
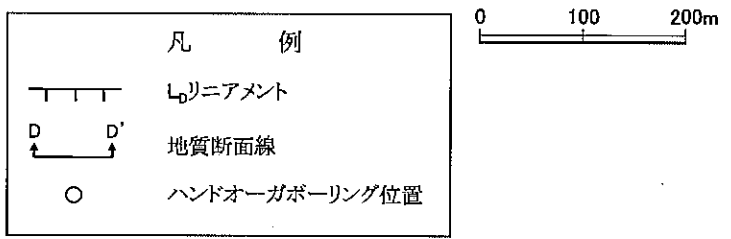
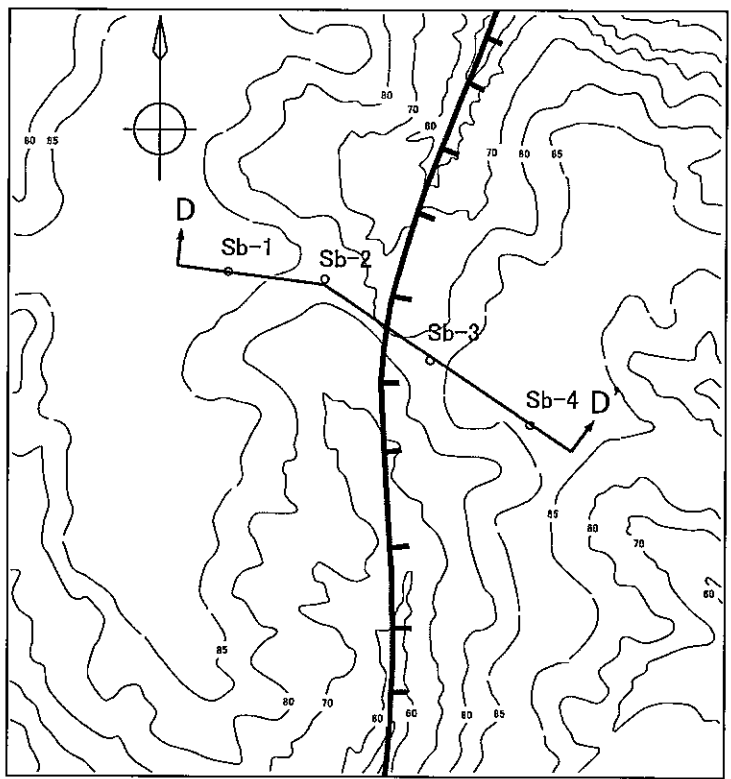


第6-2図 東北町淋代東方周辺の地質平面図



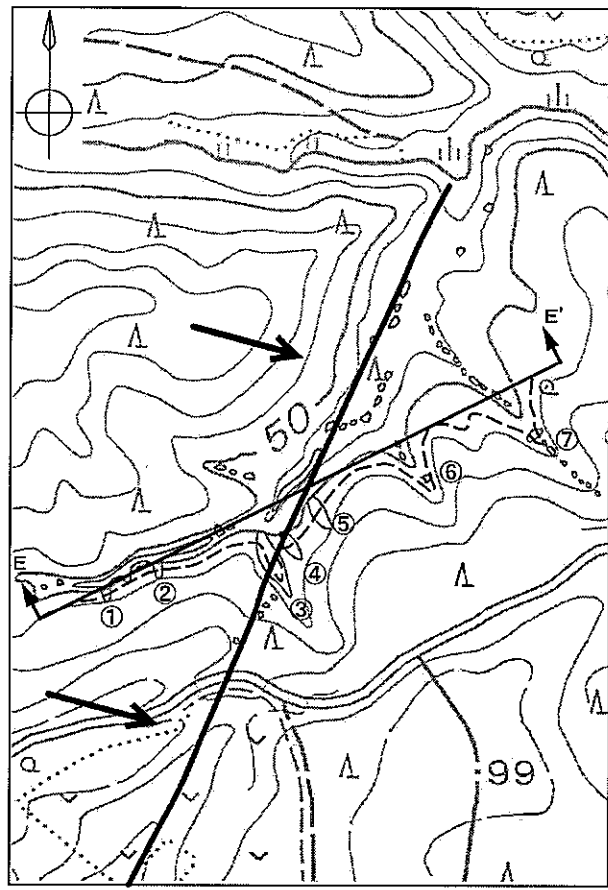
第6-3図 東北町美須々周辺の柱状対比図





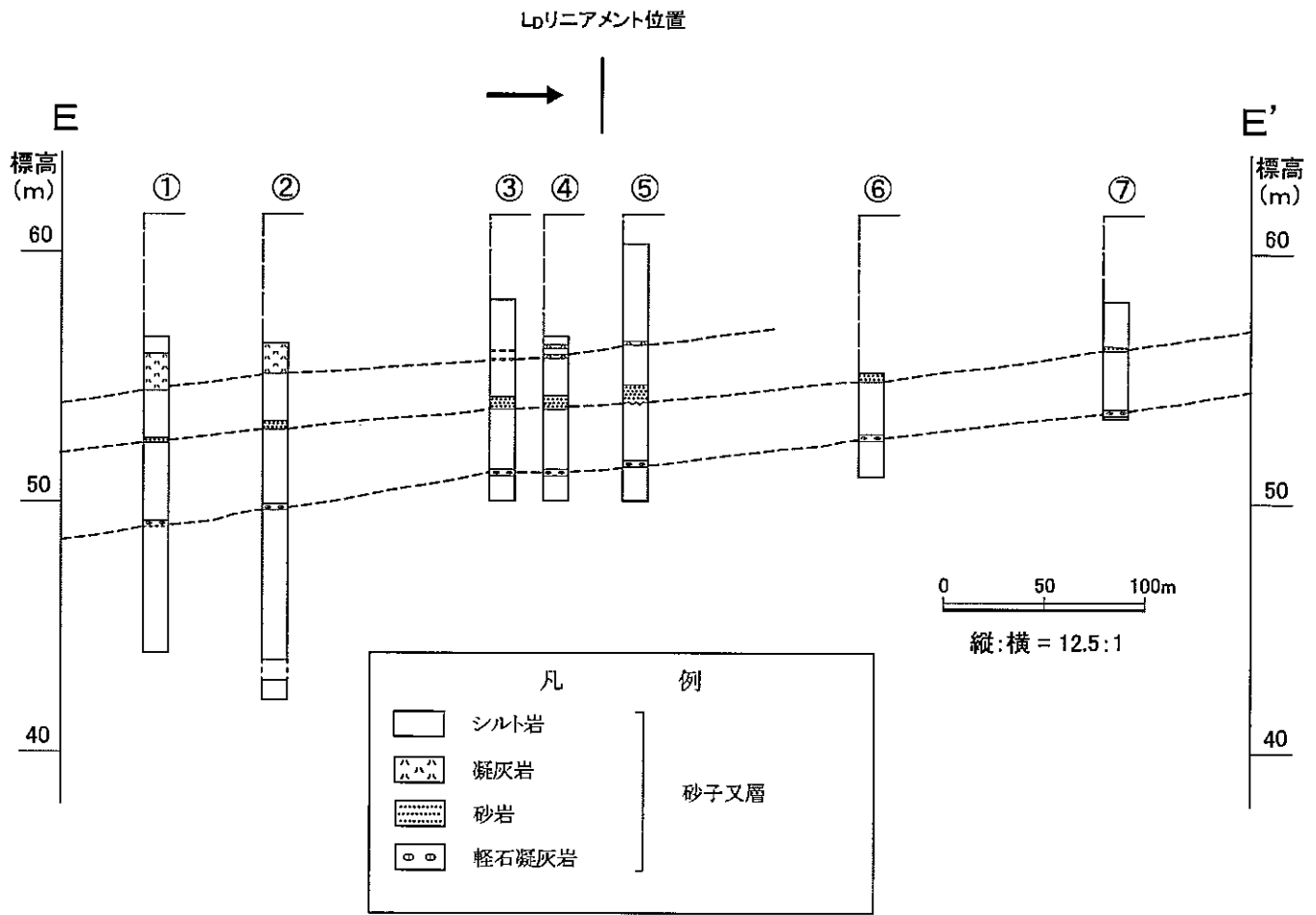
第6-4図 東北町豊畑南方の柱状対比図





- 凡例
- Lpリアメント
  - ↓ ↓ 段丘面上の急傾斜部  
矢印の方向は傾斜方向を示す。
  - E E' 地質断面線
  - D 露頭位置
  - - - 砂岩の下面

0 100 200m



第6-5図 東北町淋代東方の露頭柱状対比図